

植物と人々の博物館メールマガジン

第 107 号 2024 年 1 月 2 日発行



明けましておめでとうございます。新しい年への希望を描きたいです。風の時代は物（拝金）よりも心（思い遣り）を大事にする時代に代わるそうです。心とは何か、深く考えます。花縮砂 white ginger lily は 8 月から 11 月に咲くはずですが、本年は暖かったので、12 月末に降霜があるまで咲き、匂っていました。花言葉は豊かな心、慕われる愛、信頼などです。今年の希望を求めて賀状の刺繍にしました。

植物と人々の博物館は今後も継続します。2024 年 4 月を目標に標本、資料や書籍を整理して、森とむらの図書室を充実し、展示も再開します。お手伝いいただければありがたいです。

1. 植物と人々の博物館

○開館・作業予定日： 今年度は冬季休館します。2024 年 3 月には原則月曜日、10:30～14:10 に開館します。この間に、さく葉標本を選別し、民具、書籍の整理を行います。公共の知的財産として活用していただけるように、ご協力いただけると嬉しいです。また、資料など閲覧したい方はご連絡いただければ、休館中でも日程調整してご案内します。

担当 木俣 kibi20kijin@yahoo.co.jp

○報告

1) 植物人々の博物館運営担当者の協議

日時：2023 年 12 月 18 日

話題：植物と人々の博物館の今後の運営について

出席者：西村俊担当理事、宮本透担当運営委員、井村礼恵担当運営委員、木俣美樹男専任研究員・担当運営委員、中込卓男代表理事、黒澤友彦事務局長・理事。事後 12 月 20 日に安孫子昭二顧問研究員に報告、協議。

内容：収蔵品の措置、活動内容、運営、出版物、ホーム・ページ、その他。さらに検討を進めて、自然文化誌研究会総会（2024 年 2 月予定）の合意を得る。

2) メーリング・リストを再編しています。送付ご希望の方、ご希望されない方、お知らせください。それぞれにご対応します。

○予定など

1) 民族植物学ノオト第 17 号は 2024 年 3 月末に発行する予定です。皆様も自由にお書きくださり、1 月末までにご寄稿ください。「雑穀街道普及会始末記」は書きたいと思っています。これまでのすべての記事 pdf は植物と人々の博物館ホームページ（下記：ミュージアムグッズの項）で読めます。相当数の方々が読んでくださっています。

<http://www.ppmusee.org/goods.html>

2) 電子書籍：

編集子は自選集 IV『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』は現在、第 12 章中央アジア諸国に集中しています。この地域には 1993 年、1997 年に行きました。関連する文献が少ないので、たくさんの探検記を参照しています。一方で第 4 章南インドの雑穀文化複合をまとめています。今後は雑穀の起源と伝播の仮説の検証を行うようにまとめに向かいます。同時に、50 年の研究成果のまとめとして自選集 V“Essentials of Ethnobotany”の一部公開を進めます。また、自選集 VI『随筆集—生き物の文明への黙示録』に順次新作を追加しています。

3) 公式 HP：植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>に含めて民族植物学関係 HP:生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>

も国会図書館インターネット資料収集保存事業 (ndl.go.jp)で毎年 1 回 7 月 20 日頃に収録されます。すべての記事は無料で公開しています。ここに保存されている記事は記録として残りますので、ありがたいです。

4) 森とむらの図書室への寄贈など

現在所蔵する書籍を整理して、ご利用していただけるように、蔵書リストと閲覧書架を整理充実します。ご協力いただけるとありがたいです。

<http://www.milletimplic.net/forestvil/forestvil.html>

5) 植物と人々の博物館基金 PPM Foundation

大口寄附ではなく、できるだけローテクで貯金箱に眠っている 1 円玉からする任意募金をお願いしています。これまでにゼミなどの会場で多くの方々からのご協力をいただきました。ありがとうございます。植物と人々の博物館へのご寄付あるいは整理作業のご協力を、よろしく申し上げます。自然文化誌研究会に基金費目を設けました。標本、民具、書籍などを保存・公開するために、費目指定でご寄付をいただくとありがたいです。ご希望の方には自給農耕ゼミ（佐野川）で有機無農薬により栽培したキビなどを精白／製粉して適量を差し上げます。これまでに、多くの方にご寄付を頂き、感謝しています。2023 年度末で決算報告をします。

郵便振込口座は下記です。

口座名義：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

口座番号：00100-2-665768

2. 自然文化誌研究会

○予定 詳細はホームページをご覧ください。

12 月下旬（23-25 日 or 26-28 日）、まふゆのキャンプ、15 名 募集。

小菅村のいつものキャンプ場

3. 雑穀街道普及会： 閉会解散

この 10 年間の経緯の詳細については、「雑穀街道普及会の顛末書～大きな感謝と少

ない謝罪（仮題）」を民族植物学ノオト 17 号に書いて、詳細をご報告し、記録を残します。雑穀街道普及会は解散しましたが、下記ホーム・ページにアーカイブを公開しておきます。これらは国会図書館のデジタル事業に登録しているので、記録は残ります。

<http://www.millettimplic.net/milletworld/millstr.html>

<http://www.millettimplic.net/university/civicuues.html>

参考動画 詳細は下記のウェブサイトをご覧ください。

(33) [雑穀街道をFAO世界農業遺産に - YouTube](#)

[【報告】FFPJ連続講座第21回：日本における麦・雑穀・豆類の栽培はなぜ衰退したのか - ニュース レポート](#)

[The historical sketch of millets in Japan](#)

次の動画製作者は梶間陽一さん（映像作家 2023）です。彼はこれまでの活動記録を映像として残してくださっています。いずれドキュメンタリー映画になさるようです。表紙にされているチラシは合同会社古民家のつけによる作成であり、雑穀街道普及会は関与していませんし、本会は桂川・相模川流域協議会の賛同を得てはいません。なぜ、雑穀街道普及会を閉会解散することになったかの顛末の一部事実はこれらの事から感じ取っていただけるかと思えます。

<https://www.youtube.com/watch?v=TF8hdpFPe0g>

4. 環境学習市民連合大学 Civic United University for Environmental Studies

環境学習市民連合大学は環境学習の理論と実践を普及啓発する目的で、ウェブサイトを作っています。環境学習・保全 NP04 団体と 3 個人から出発した市民大学です。主旨は、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、自らが学び合う環境学習市民連合大学をリンク・ページとして、インターネット上で運営することです。ヨーロッパの 12 世紀ルネサンスの先駆けとなった原初の大学は学び合いたい人々の学習者組合でした。都市を旅しながら教師も学生も互いに学びの自由を守護し合い、共助していました。入学資格、試験、授業料、卒業資格はありません。どなたでも、学び合いたい人々が自由に集まるのです。アーカイブは次にあります。

<http://www.millettimplic.net/university/civicuues.html>

○ 報告

1) 自給農耕ゼミ（小金井）第 9 回（終） 7+3 名参加

日時：11 月 19 日（日）14：00～16：00

場所：小金井市中町カエルハウスおよびオンライン（zoom）

プログラム：

話題：①果てしない穀実物語 2 世界の穀物料理の起源から心の構造と機能を学ぶ
～希望は人新世を生き物の文明へと移行することにある～

②雑談、雑穀発泡酒の試飲

話者：木俣美樹男

協催：カエルハウス運営委員会、NPO 自然文化誌研究会／植物と人々の博物館

映像記録 URL：https://www.youtube.com/watch?v=kb8vER_HRe8&feature=youtu.be

資料：<http://www.milletimplic.net/university/farming/grain3fnal.pdf>

関連資料：『雑穀の民族植物学～インド亜大陸の農山村から』第3章および補論3 <http://www.milletimplic.net/indiansubcont/indmilbook/chap3foodok.pdf>

<http://www.milletimplic.net/indiansubcont/indmilbook/chap3foodsuplok.pdf>

2) 雑穀発泡酒ソビボ・ピーボ 復刻企画 東京学芸大学公認事業 終了

目的：国際雑穀年を記念し、雑穀街道を FAO 世界農業遺産に登録する活動を普及促進するために、雑穀発泡酒ソビボ・ピーボ（素美暮発泡酒）を、国際雑穀年・東京学芸大学創基 150 周年記念としてジャズ・ブルウィング（相模原市緑区佐野川）で復刻醸造しました。第 1 回目は 9 月 20 日に発送しました。第 2 回は自給農耕ゼミで栽培した新穀キビを使用、醸造し、12 月 22 日に発送しました。お申込みは終了して、3 回目は実施しません。とても評判は良かったです。

会計報告はすべて清算後に、関係者に別添付します。

企画団体：東京学芸大学雑穀発泡酒復刻有志ほか、植物と人々の博物館／日本村塾自給農耕ゼミ（佐野川）

連絡先：kibi20kijin@yahoo.co.jp 木俣美樹男（事務担当幹事）

3) 冬至（12 月 22 日）に、安孫子さんのご案内で、多摩境の田端環状積石遺構を訪ねました。縄文後・晩期の墓地・祭祀場ストーン・サークルで、蛭ヶ岳山頂への日没が見られました。

この日は不思議な一日でした。前日、「つぶつぶ」最新号が送られてきて、ここには「雑穀物語 4 貝澤夫妻」について書き、掲載されています。当日、ピーボを箱詰めしながら、醸造家山口解さんと話していたら、トンコリ奏者の沖さんと共演したことがあるとのことでした。夕方、遺跡で安孫子さんの解説をうかがっていたら、参加者の中に旧知の浦川治造さんがおいでになったのです。20 年ほど会っていませんでした。2003 年 5 月 17 日に学大でアイヌ民具の展示や料理、カムイノミなどを一緒にしていただいたのです。偶然か必然か、旧知のアイヌの方々が冬至の日に身近に縁を再び結んだのです（写真）。

4) 自給農耕ゼミ（佐野川）

① 収穫した穀物は木俣が預かりました。適宜、精白、製粉して、参加者の方に差し上げます。年末に、発泡酒材料の残りのキビは希望者に送りました。

② 来年度も宮本茶園の雑穀畑は継続しますので、種次などの作業にご協力ください。

作業予定などの連絡先は宮本透さんです。 kwangjuu1980@yahoo.co.jp

ご連絡、ご参加をお待ちしています。

○予定

1) 今後の計画について検討しています。博物館研究員の学びを中心に、一般参加希望者には一部公開 zoom の方向で、環境学習セミナー（第 41 回）を再開する案が出ています。

2) 第 39 回泉龍寺仏教文庫講座（狛江）依頼講演

予定 2024 年 3 月日 土曜日未定、14～16 時

話題：果てしない穀実物語 3 （仮題）「穀物の栽培化過程から心の構造と機能を学ぶ瞬きの阿修羅」

◎随筆；雑穀物語 7 中川智・仁兄弟

山梨県上野原市西原の中川兄弟とはずいぶん長いお付き合いです。私の師匠である降矢静夫さんの尋常小学校同級生・畏友が中川勇さん、すなわち中川兄弟のご尊父です。降矢さんらの雑穀栽培後継者として、雑穀研究会や雑穀栽培講習会など、何かとご指導をいただけてきました。最近でも、雑穀街道の見学者に中川さんの農場をご紹介してきました。彼の畑には、いろいろな作物が栽培されていて、とてもカラフルで面白いです。玄関先にはアワ、キビ、モロコシ、シコクビエ、ムカシモロコシなどの穀物数種・20 品種以上が吊るしてあります。このようなお宅は世界中にここだけでしょう。

畑は俺の遊び場だと称して、野良仕事を楽しんでおいでの姿が共感を呼ぶのでしよう。彼の作業技術の DAD も作られて、映像では残されるので良かったと思います。しかしながら、雑穀物語 4 の貝澤さんの言うように、言葉や映像ではなく、直接、体で覚え、学ぶことが生業を継承する本来のあり方です。

中川さんは焼き畑も幼少のころに経験しています。立川の図書館を退職後、30 年ほど、栽培だけでなく、水車などによる加工、調理、販売までの技能を持ち、篤農の技能と知識を継承してきました。彼の周りには、生き方に共感し、技能や伝統的穀物の保存を学ぼうとする人々が多く集まってきています。中川さん兄弟は、伊能まゆさんの招待でベトナムにも技術指導に行きました。

伊能さんはベトナムで在来作物の保全・継承に関しての普及活動を 20 年余り続けています。生物多様性条約締約国会議（名古屋）COP10 以来のお付き合いです。CBD 市民ネットワーク／タネと人々の未来作業部会でポジション・ペーパーづくりなども一緒しました。ジャパンボランティア・センター JVC で小西司さんもベトナムで働いていました。その後任のような人です。先日、伊能さんの一時帰国時に、一緒に中川さん宅を訪問しました。

中川さん、岡部さん、秋子さんのように、今後とも誇りをもって生業を伝承できる次世代の方々が雑穀街道筋にもいてくださることを願っています。

注：DVD は『種子をつなぐ人～西原 中川智さんの雑穀栽培の暦』、同映像制作プロジェクト。

* 雑穀物語 1～4（2023 国際雑穀年）は「つぶつぶ」誌に、立花夫妻、降矢夫妻、椎葉夫妻および貝澤夫妻の物語としての連載しました。この随筆は引き続き、メルマガで

連載することになります。

~~~~~

## 植物と人々の博物館 (山梨県小菅村) :

館長：木下善晴、顧問研究員；安孫子昭二

研究員：木俣美樹男 (東京、専任研究員、担当運営委員)、西村俊 (石川、担当理事)、井村礼恵 (東京、担当運営委員)、川上香 (長野)、渡辺隆一 (長野)、Sofia M. Penabaz-Wiley (千葉)、伊能まゆ (ヴェトナム)、大澤由実 (神奈川) ほか

公式 HP：植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

事務担当幹事 メールマガジン発行：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

民族植物学関係 HP:生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>

エコミュージアム日本村／ミューゼス研究会 (山梨県小菅村)：代表 亀井雄次 (山梨小菅村)

自然文化誌研究会：代表 中込卓男 (東京)、副代表 中込貴芳 (東京)、小川泰彦 (埼玉)

<http://www2.plala.or.jp/npo-inch/> 事務局長：黒澤友彦 (山梨県小菅村)

~~~~~

写真





田端環状積石遺構にて：自給農耕ゼミの参加者、浦川治造さん。蛭が岳山頂の夕日。



キビ発泡酒ソビボ・ピーボの2回目発送